

令和4年度第2回 東京都商品等安全対策協議会
議事録

令和4年10月27日（木）

都庁第一本庁舎 33階 北側特別会議室N2

午後1時30分開会

○折原課長 それでは、定刻になりましたので、ただいまから令和4年度第2回東京都商品等安全対策協議会を開会いたします。

聞こえておりますでしょうか。

事務局を務めます生活安全課長の折原です。

委員の皆様方におかれましては、お忙しい中、本協議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。本日も前回に引き続き、新型コロナウイルス感染防止対策などのため、オンラインによるご出席を基本に実施いたします。何とぞご協力のほど、よろしくお願いいたします。着席にて失礼いたします。

最初に、オンラインの操作について説明させていただきます。雑音やハウリング防止のため、ご発言される時以外はマイクをオフにさせていただきますよう、よろしくお願いいたします。またカメラについて、可能であればオンでお願いいたします。また、音やカメラについて不具合が生じた際には、一旦会議から退出して、再入室を試みていただければと存じます。再入室しても改善されない場合には、あらかじめお伝えしております緊急用携帯の電話番号にご連絡をお願いします。

それでは、まず、今回の協議会の出欠状況です。東京消防庁の山根朋公委員ですが、本日所用のためご欠席です。代理として、防災部防災安全課課長補佐の阪本浩司様にご参加いただいております。よろしくお願いいたします。

○阪本委員代理 よろしく申し上げます。

○折原課長 お願いします。

続きまして、事前にお送りした会議資料を確認させていただきます。お手元にご用意ください。最初に、会議次第になります。委員等名簿・事務局職員名簿、資料1、子供の安全のための情報収集・発信に関するアンケート調査結果、資料2、第1回協議会意見等（Safe Kids Japan）への対応でございます。

以上となります。よろしいでしょうか。

それでは、続けさせていただきます。

なお、本協議会は、公開とさせていただきます。

冒頭、事務局からは以上です。それでは、ここからは西田会長に進行をお願いいたします。

○西田会長 こんにちは。東工大、西田です。

それでは、会議次第に従い、進行していきたいと思っております。

おおむね3時半には終了したいと思っております。議事進行にご協力よろしくお願ひします。

早速、議事の1に入りたいと思います。最初に資料1、子供の安全のための情報収集・発信に関するアンケート調査結果について、事務局からご説明お願ひします。

○松田統括課長代理 生活安全課の松田です。

資料画面を共有しながら進めていきます。

それでは資料1、子供の安全のための情報収集・発信に関するアンケート調査結果をご覧ください。特徴的な結果について、ご説明します。

1ページから3ページまでは結果概要となっております。

4ページをご覧ください。今回のアンケートは東京都に居住し、0歳から12歳までの子供を育てている20代から40代までの男女3,000人が対象で、構成は男女半々で、さらに未子性別、年齢で均等割としました。

5ページをご覧ください。ここから調査結果となります。

まず、これまでの日常生活における子供の事故などの経験となります。

図表1-1をご覧ください。病気を除くけがや事故などによる医療機関の受診を経験している回答者は過半数でした。

6ページ、資料1-2をご覧ください。受診時の事故の内容は、「外出時の転倒・転落」が最も多く、次いで、「普段の遊びでの事故」、「家庭内でのベランダ、窓以外での転倒・転落」、「スポーツ・学校活動での事故」でした。

7ページ、図表1-3をご覧ください。事故時の子供の年齢は、年齢内訳不明の「小学1～3年生」を除くと「3歳」が最も多く、次いで「2歳」になりました。

8ページ、図表1-4をご覧ください。医療機関の受診に至ったけがや事故は、乳児期から学齢期までの活動範囲の広がりに応じて変化が見られるものの、「家庭内でのベランダ、窓以外での転倒・転落」は学齢、児童でも2割以上が経験をしています。

9ページ、図表1-5をご覧ください。子供の行動でヒヤリ・ハット経験をしている回答者は7割になりました。

次、10ページ、図表1-6をご覧ください。日常生活でのけがや事故などで、医療機関を受診、またはヒヤリ・ハット経験をしている回答者は8割を超えました。

11ページ、図表1-7をご覧ください。子供の事故防止に役立つと思うことは、「保護者への注意喚起」が最も多く、次いで、「保育園・幼稚園・学校での安全管理の推進」、「子

供の安全性を考慮した商品開発」、「子供の事故に関する情報の公開」でした。最も役に立つと思うものについては、割合や順位が異なりました。

12 ページは、子供の事故などの経験に関する主な自由記述となります。

13 ページをご覧ください。次は、子供の事故に関する保護者の情報収集の実態となります。

図表の 2-1 をご覧ください。事故防止やけがについて欲しい情報は、「実際の事故事例」が最も多く、次いで「安全対策、事故防止のポイント」、「けがに対する応急処置、対処方法」でした。

図表 2-2 をご覧ください。事故防止やけがの情報の入手は、「関係するメールマガジンや通知、ニュースなどを見たタイミングで入手している」が最も多く、次いで「事故が起きてからはじめて、情報を入手しはじめる」、「日常的に自ら積極的に情報を入手している」という順でした。

14 ページ、図表 2-3、2-4 をご覧ください。けがや事故に遭ったときに欲しい情報は、「けがに対する応急処置、対処方法」が最も多く、次いで「病院などの医療機関の情報」、「実際の事故事例」、「安全対策、事故防止のポイント」となりました。特に、子供の年齢が低いほどその傾向が見られました。

15 ページ、図表 2-5 をご覧ください。情報の入手先は、「インターネット（SNS や関係するウェブサイト、ブログなど）」が最も多く、次いで「家族・友人・知人」、「テレビ・ラジオの報道」でした。

図表 2-6 をご覧ください。インターネットから情報を入手する回答者の端末は、8割近くがスマートフォンでした。

16 ページ、図表 2-7 をご覧ください。情報の入手先は、「インターネットのニュース」が最も多く、次いで、「子育てに関する情報サイト」、「Twitter」、「Instagram」でした。

17 ページ、図表 2-8 をご覧ください。信頼（参考に）している情報は、「家族・友人・知人などの発信」の次に「国や自治体などの行政の発信」が多い結果となりました。

18 ページ、図表 2-9 をご覧ください。情報を信頼（参考に）するにあたり、重視するのは、「内容の合理性」が最も多く、次いで「発信者、発信する企業・団体」、「国や自治体など行政からの発信」でしたが、もっと重視するのは、割合や順位が異なる結果となりました。

19 ページをご覧ください。次に、子供の事故に関する保護者からの情報発信の実態となります。

図表 3-1 をご覧ください。子供が事故にあったり、あいそうになったとき、関係先への報告は、「全くしない」に次いで、「することがある」、「必ずする」ということであり、少なくとも「することがある」というのが過半数を超えました。一方、SNS などの発信は「全くしない」に次いで、「することがある」、「必ずする」で、報告に比べて、発信する割合が小さい傾向が見られました。

20 ページ、図表 3-2 をご覧ください。けがや事故の経験に関する報告や発信の経験は医療機関を受診している回答者ほど多いことが分かりました。

図表 3-3 をご覧ください。商品等による事故の報告を「必ずする」、「することがある」、「その他」の回答者の報告先やメーカーが最も多く、次いで「病院やクリニックなどの医療機関」、「販売店、インターネットモール」でした。

21 ページ、図表 3-4 をご覧ください。商品等による事故の報告を「必ずする」、「することがある」、「その他」の回答者の理由は、「報告すれば商品が改善される可能性があるから」が最も多く、次いで「事故にあったのは商品や販売元に原因があると思うから」、「事故を引き起こした商品や販売元に対して不満があるから」でした。

図表 3-5 をご覧ください。商品等による事故の報告を「全くしない」の回答者のしない理由は、「報告するまでのことではない、大した事故ではないから」、「事故に遭ったのは保護者の不注意（保護者の責任）だから」とほぼ同数になり、「特に理由はない」が 3 割ありました。

22 ページ、図表 3-6 をご覧ください。SNS などでの発信を「必ずする」、「することがある」、「その他」の回答者の発信先は、「自分の SNS、動画配信サービス、ウェブサイト」、「自分以外の SNS、ウェブサイトなど」の順でした。

図表 3-7 をご覧ください。SNS などでの発信を「必ずする」、「することがある」、「その他」の回答者の発信する内容については、「事故内容」が最も多く、次いで「事故時の商品の写真」、「事故時のお子さんの写真」でした。

23 ページ、図表 3-8 をご覧ください。SNS などでの発信を「必ずする」、「することがある」、「その他」の回答者の発信理由は、「発信することで商品が改善される可能性があるから」が最も多く、次いで「他の子育て中の方に伝えたいから」、「事故を引き起こした商品や販売元に対する不満を共有したいから」でした。

3-9をご覧ください。SNSなどでの発信を「全くしない」の回答者の発信しない理由は、「SNSは閲覧のみで発信はしないから」、「発信するまでのことではない、大した事故ではないから」、「特に理由はない」というのがほぼ同数になりました。

24 ページをご覧ください。次に、行政・事業者団体による主要なウェブサイトなどの認知度になります。

図表4-1をご覧ください。当局が発信しております「東京くらしWEB」、「東京都消費生活行政Twitter」、「東京都消費生活Facebook」とも、約8割の回答者が「知らない」とのことでした。

図表4-2をご覧ください。「東京くらしWEB」を閲覧したことがある回答者のうち、「くらしの安全」サイトの認知度は9割弱でした。

25 ページ、図表4-3をご覧ください。「東京くらしWEB」の閲覧契機は、「検索サイトで検索した結果」、次いで「消費生活行政Twitterのリンクから」、「広報紙「広報東京都」を見て」となりました。

図表4-4をご覧ください。その他の行政機関の事業者の子供の事故防止や安全に関するウェブサイトやSNSの認知度は低く、「知っており、よく見ている」割合は約5%であり、8割の回答者が「知らない」とのことでした。

26 ページ、図表4-5をご覧ください。キッズデザイン協議会が発信しているウェブサイト、「キッズデザイン賞」、「キッズデザインマーク」のいずれについても、8割弱の回答者が「知らない」とのことでした。

27 ページをご覧ください。最後に、構築中のプラットフォームの評価になります。アンケートで評価を受けたプラットフォームは、今回協議をいただくプラットフォームの前段階のものであり、火曜日に画面キャプチャーでお示したものになります。

図表の5-1をご覧ください。「また見たいか、レポートしたいか」との問いには、「また見たい」が73.6%でした。

図表5-2をご覧ください。「内容・コンテンツが充実している」は70.3%でした。

28 ページ、図表5-3をご覧ください。デザイン・レイアウトが「分かりやすい」は73.7%でした。

図表5-4をご覧ください。情報が「探しやすい」は66.8%と、ほかの項目と相対的に見て、やや低い評価となりました。これらの結果から、7割強の回答者がプラットフォームを肯定的に評価していました。

29 ページ、図表 5－5 をご覧ください。「投稿フォームに報告したいか」ということですが、「報告したい」は 56.7%と、5 割を上回っております。

30 ページから 34 ページまでは、プラットフォームの評価について、主な自由記述を肯定的な意見、否定的な意見、プラットフォームの改良につながる意見を分類してまとめております。

子供の事故やその防止に係る有効な自由記述、Q34 になりますけれども、800 件ぐらいありました。35 ページ、36 ページに分類し、代表的なものを抜粋して掲載しております。

以上で資料 1、アンケート調査結果の説明を終わります。

○西田会長 ご説明ありがとうございました。

それでは、ただいまのアンケート調査結果について、ここからご意見、ご質問をお受けしたいと思っております。

発言される方は、挙手ボタンをオンにしてください。私のほうでそれを見て、ご指名させていただきたいと思っております。その後、マイクをオンにして、ご発言いただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

どなたからでも結構なので、何かお気づきの点、お聞きしたい点などございましたら、よろしく申し上げます。

何かございますか。

ありがとうございます。浦野委員ですかね。よろしく申し上げます。

○浦野特別委員 ありがとうございます。説明ありがとうございました。

今のアンケートの結果をお聞きした範囲の中で気づいたことを、お伝えできればと思います。

前回の会議でも、検索されやすいようにすべきというご意見があったかと思っております。今回のアンケート結果でも、図表 2－2 で、一般のニュース等を見たタイミングでワード検索をする、自分の事故が起こったときから検索をすると、約 3 分の 2 の人が検索でそういうことを探すとおっしゃっていたかと思っております。また、図表 4－3 でも検索結果でたどり着くことが多いということで、そういう意味で、いわゆる SEO 対策、検索したときにつながりやすいようにという点を工夫することが大事であるというのが改めて 1 点と、検索をしたときに「あれ、これは何のホームページだろう」と、そこからそのホームページのトップや関連ページに飛べるような工夫をされるのがいいのかなと思っております。そうしたら、このホームページ自身の周知を一生懸命する必要がなくて、検索してもらってそのときに見てもらおう。じ

やあ、次回はまた見ようというふうな、そのアプローチに重点を置くのが効率的ではないかと、今回のアンケートを拝見して、改めて思った次第です。

以上です。

○西田会長 浦野委員、ありがとうございます。

そのほかございますでしょうか。コメントでも、ご質問でも。

よろしく申し上げます。釘宮委員、よろしく申し上げます。

○釘宮委員 釘宮です。

ご説明ありがとうございました。

このサイトに対して、報告したいと考えている人が 50%いたというのは、このサイトの可能性というか、それを感じさせる内容で、よかったですと思います。ただ、自由回答のほうを見ると、「報告しない」というほうに、「検証してから責任を持って掲載されていなさそう」とか、あるいは、自分が投稿したものについて、「どう取り上げられるかで迷う」といったような懸念点というのも挙がっていますので、そういったところがきちんと解消されるような、利用のルールのようなものをあらかじめ示すというところが必要なのではないかと思います。

以上です。

○西田会長 釘宮委員、ありがとうございます。

そのほかございますでしょうか。

○浦野特別委員 すみません。何度もすみません。浦野が手を挙げました。

○西田会長 それでは、浦野委員、よろしく申し上げます。

○浦野特別委員 すみません。

質問もオーケーということで、質問させていただきます。何かあったときに報告をしたいという数字が意外と多いなと思いました。テーマや聞き方が違っていますが、東京都では何年もこういう調査をされているので、時系列的にそういう報告をする人が増えている傾向にあるのかないのか、もし感じていらっしゃったら、教えてほしいなと思いました。お願いします。

○西田会長 ご質問ありがとうございました。

これは、過去のデータと比較をしまして、今、すぐその資料がないかもしれないんですけども、ございますでしょうか。

○松田統括課長代理 いつも事故が起こったときに報告をするかというようなアンケート

を、確かに浦野委員のおっしゃるとおり取ってはおります。商品等安全対策協議会を担当して、私も5年目になります。協議会自体はこれまで3回経験し、今年で4回目ですが、過去3回とも、印象では報告したいという人が増えているような傾向はなかったのではないかなと思っています。ただ、実際に、ちょっとデータを見比べてみないと分かりませんので、後でご回答ということでもよろしいでしょうか。

○浦野特別委員 はい。多分、聞き方が違うので、単純ではないと思うんですけども、ちょっと気になって。世の中の流れに多分関係するのかなと思ったので。

○松田統括課長代理 分かりました。

○浦野特別委員 よろしくお願ひします。

○西田会長 ありがとうございます。

これは、東京都の数値を僕はきちんとはまだ見ていないんですけど、たしか過去、関連するアンケートでは、3%ぐらいだったと思います。そういう数値を見たことがあって、今回のと比較すると、やっぱりそういう意識が上がってきているというのはあり得るのかなと思います。後ほど、東京都さんのほうから詳しいまた報告があるかなと思います。

ご質問ありがとうございました。

それでは、お手が今挙がっております田崎委員、よろしくお願ひします。

○田崎特別委員 お願ひします。

ご説明ありがとうございました。

アンケートを見て、すごく前向きに捉えられているような感じだったのでいいなと思ったんですけど、幾つかばらばらと意見をお伝えしたいなと思っています。

三つありまして、コンセプトと全体構造とデザインについてなんですけど、途中で区切ったほうがいいでしょうか。

○西田会長 どうぞ、お願ひします。

○田崎特別委員 アンケートで気になったのが、欲しい情報の中で、事故事例とか安全対策、事故防止のポイントと、防止につながる情報というのが高いなと思ったんですけども、一方では、けがをしたときの応急処置とか対処方法というのも知りたい情報として高い数字だったので、どちらが優先的ということは言えないのかなと感じています。

この場合このプラットフォームでは、どちらに重きを置くのか考えた設計が必要なのかなと思っていますが、現状のサイトの設計だと、ケーススタディーがあって、予防法については知ってもらいたい大きな流れがあると思っています、そのとき、事故が起きたと

きの対処法については、特に触れないのか、その辺りはどうなのかなというのを聞きしたいなというのが一つです。

防止法を調べるというよりは、何らか事故が起こった際に自分で検索するということが多いかなと思うので、より広く使用してもらいたい場合は、そのような項目もあってもよいのかなと思っています。

例えば私が、じゃあ実際自分の子供がけがしたらどうするかなと思ったときに、「子供 転んだ」とか「子供 落ちた」みたいな検索をするのかなと思っていまして、そうやって検索すると、今、日本医師会の情報が割と上位に上がってきます。そのときに、これがいいかどうかは別ですが、そういったサイトと連携するですか、あと、小児の緊急相談ができる「#8000」番の番号を載せておくとか、そういったことも親切なのかなというふうに感じました。まだ続きますけど、いいですかね。

○西田会長 ありがとうございます。今、1点目ですかね。

○田崎特別委員 はい、そうですね。

○西田会長 よろしくをお願いします。

○田崎特別委員 次に、このサイトの対象年齢について分かりにくいという意見がありまして、それは事例の中で例えば、0歳から3歳、4歳から6歳、7歳から10歳ぐらいな感じで、入り口を変えてあげる方法もあるのかなと思っていますが、もう一つの質問としては、このサイトは7歳から10歳は対象じゃなかったかどうだったかなというのが気になっているところで、もし対象じゃなければ、例えば小さな子供の安全のためのプラットフォームといった伝え方でもいいのかなと思っています。ただ実際に、小学生の事故も多かったので、10歳未満を対象に広げてもいいのかなと思いました。

また、全体構造について、スクロールが少し長い印象で、どこを見ればいいのかというのが分かりにくいかなという感じがしまして、前回のサイトのように、ボタンがまずあって、そこを押すと、該当箇所まで飛ぶみたいな設計のほうが分かりやすいのかなというふうに感じます。

あと気になったのが、みんなに知ってほしいということと、みんなに伝えたいという違いが分かりにくく、先ほどのコンセプトの部分と重なりますが、例えばさっきの予防と対策、それから実際に事故が起こったケーススタディーみたいなことと、あとはもう一個、事故に遭った場合の後の対処法みたいなこの三つですね。予防、事例、事故に遭った対策みたいな感じの三つの柱で行くのがいいのかなと感じています。そうなった場合に、今のこのサイト

の中で、いつどんなけがが起きるのというのと、あと、「みんなの痛っ!」、「みんなのひやっ」というのは、事例に入って、「はじめてチャレンジ!」、「みんなの工夫」というのが予防に入って、「教えてほしい」ということも予防の中に入るのかなと感じています。

○西田会長 ありがとうございます。

それでは、そのほか、今回のこのアンケートプラットフォームに関しては、後ほど十分時間を取ってありますので、アンケート結果に関して、何かございますでしょうか。

安藤委員、よろしくお願いします。

○安藤特別委員 ご説明ありがとうございます。

1点だけ、スマホの利用率というのがやはり高いなと思いました。前回は発言をさせていただいたんですが、食品購入に関するアンケートを取ったことがあり、同じように8割ぐらいが利用しているという結果でした。やはり利用率は間違いなく高いと考えます。このため、今の若いお母さん、お父さんはスマホで見るのが圧倒的に多いと思うので、スマホでのインターフェースやプラットフォームというのが重要だと思っています。

前回指摘内容も対応済みということなので、後ほどのご説明の中でスマホのインターフェースというのをよく見させていただけるとありがたいと思っております。

細かい指摘については、今、田崎委員が言ったのと同じ内容を思っていたところがありますので、その辺りはまた開発画面を見た上で意見をさせていただければと思っております。

以上です。

○西田会長 安藤委員、ありがとうございます。

スマホ対応に関しても、後ほどご説明があるかと思えます。ありがとうございます。

それでは、そのほかございますでしょうか。

もしよろしければ、アンケートに関するご質問はこの辺りにしまして、何かございますか。

奥村委員、よろしくお願いします。

○奥村特別委員 ご説明ありがとうございます。

ちょっと進行が押しているようであれば、手短かに。

弊会のことも設問に加えていただいて、ありがとうございます。我々のほうでも認知度調査をちょっと違った形でやっていますけど、似たような数字です。東京都のほうのウェブサイトの状態を見ると、後ほどプラットフォームのインターフェースだとか、SEO対策の話が出てくるかと思えますけれど、いかにいいものをつくっても、どうやって来てもらうんだという話をやっぱり考えなきゃ駄目だなと思っているところでございます。

アンケートの内容でいうと、例えば図表3-7に、SNSで何を発信するかというところに、お子さんの写真だとか、お子さんの動画が案外あったので、複数回答とはいえ、ちょっと今のお母さん、お父さん方、その辺りの意識どうなのかなと少し気にはなりました。患部だけ写していて、子供を写していますよと言っているのか。最近は顔まで見せるとか、名前が分かるようなところまでは出さないと思うんですけど、ちょっとここが思ったより数字があったので、少し気にはなりました。

あとは、全てトップにはならないですけど、事故に遭ったのは保護者の不注意だから云々という回答のされ方がそれなりに数字があるので、その辺りの意識は根強いのかなと。そこの認識が変わらないと、Safe Kids Japanの山中先生なんかも言われているように、保護者が自分の責任だからもうわざわざ言わないだとか、格好悪いから報告もしないというような意識があると、なかなか情報も出てきづらいのかなと思っていますので、それをうまく引き出してあげる方策なり、出しやすい環境というのをつくる必要があるのかなと思いました。

以上でございます。

○西田会長 奥村委員、ありがとうございました。

それでは続いて、鹿野委員、お願いできますでしょうか。

○鹿野特別委員 アンケート結果のご説明ありがとうございました。

結果についての質問ですが、図表の1-1で子供の事故の経験が1回もないという方が4割程いるように思ったのですが、この4割程の方について、もし追加情報などがあれば教えていただけないでしょうか。例えば、この1回もないという方のケースが、小さい子供であったのかなどです。理由は、お子さんが0歳児の、まだあまり動かない月齢のお子さんであると、事故に遭いにくいのではないかと思ったためです。1歳の途中ぐらいからは動きも活発になり始めるため、事故に遭う件数が多くなるように思うのですが、そのような傾向があるのかどうか、分かるとよいかと思いました。また、事故に遭われた事例が、1人の保護者で年齢の近い複数人の子供を世話していたという状況であったかどうか、分かれば教えていただきたいと思います。一人で複数の子どもを世話しているときに事故が多いという傾向があるようでしたら、そのような観点でのコンテンツのつくり方、メッセージの発信の仕方もあるのかなと思いました。

以上です。

○西田会長 鹿野委員、ありがとうございました。

これは、恐らくデータ上あると思いますが、すでに、その分析があれば、事務局説明をお願いします。1回もないということと、年齢との関係とか。

○松田統括課長代理 ローデータ的にはあるのですが、そこまでの分析に至っていません。

○西田会長 そうですね。

○松田統括課長代理 はい。1回もないというところについて、ちょっと調べまして、また改めて委員の皆様にご提示したいと思います。

○西田会長 ありがとうございます。

それでは、鹿野委員、よろしいでしょうか。

○植松特別委員 今の鹿野様のご意見に対するコメントなんですけど、これは医療機関の受診経験なので、けがをしたことがないというよりは、けがによる医療機関の受診経験ということになるのかなと思ったのですが、いかがですか。

○西田会長 おっしゃるとおりですね。

○植松特別委員 受診していないとあり得ないというか、結構、ちっちゃいけがはあるから、受診していないことってあるのかなと、医療者の立場から思ったのですが、すみません、意見です。

○西田会長 補足説明ありがとうございます。

ということで、けがを1回も起こしていないという意味ではなくて、病院を受診したことがあるかということで、これはアンケートデータがあると思いますので、分析してご回答したいと思います。

ありがとうございます。

○鹿野特別委員 ありがとうございます。

○西田会長 それでは、この議事の1番目のアンケートの質疑に関して、この辺りにしたいなと思いますけれども、よろしいでしょうか。

それではこれより議事の2に入って、プラットフォームの検討について進めていきたいと思います。

前回の協議会后にご意見を反映して、改良したプラットフォームのテストサイトをこれから見ていただきたいと思います。その後、検討を行いたいと思います。

それでは、事務局からご説明をお願いします。

○松田統括課長代理 それでは、これから現在改良中のプラットフォームを見ていただきます。

既に委員の皆様にはテストサイトのURLをお示ししていますが、改めて構築主体の Safe Kids Japanの太田様と作成されている芝様にこのテストサイトについてご説明していただきます。

よろしくお願いたします。

○太田氏 皆様、こんにちは、Safe Kids Japanの太田でございます。ただいまご紹介いただきました。ありがとうございます。

今日、これから20分ほどお時間をいただきまして、前回の先生方に見ていただきましたサイトと先生方のご意見。それから、アンケートを受けて、どういうふうに変ったかという、まだ途中経過なんですけど、そのテストサイト「バージョン2」をご覧いただきながら、ご説明をしたいと思います。芝さん、大変恐れ入りますが、私とサイトを共有していただけますでしょうか。

○芝氏 はい、少々お待ちください。

○太田氏 芝さん、ありがとうございます。

こちらが作成途中ではあるんですけども、前回から変わった「バージョン2」の画面を見ていただいています。

今、先生方から幾つかご意見もいただきまして、私なりに六つのポイントとしてご説明をさせていただきたいと思います。

一つは、東京都さんとの関係です。

二つ目が、このプラットフォームの立ち位置です。何を訴求するのか。ほかのサイトとどこが違うのかということです。

三つ目は周知の仕方です。これは前回も先生方からいろいろご意見をいただきました。

四つ目が双方向性というテーマです。

五つ目が実際に安全な商品を購入するための道筋です。

最後に、こういったものを全て実現するためのデザインについて、ご説明をしたいと思います。

まず一つ目が東京都との関係です。前回の委員会で、これは誰が作っているサイトなのかということを確認にしたほうが良いというようなご意見。それから、信頼性という意味では、一NPOではなく東京都がこんなに関わっているということをしっかりと示したほうが良いというご意見をいただきましたので、画面右上に東京都さんのシンボルマークを入れさせていただきました。今、この中央に映っているのがスライダーでございまして、画面が数

秒ごとに変わるんですけれども、今はまだ入れておりませんが、公開時には東京都知事のお顔写真とメッセージが入る予定です。

続きまして、二つ目、このサイトの立ち位置の目指すものというところなんですけれども、先ほども田崎委員から、三つの柱でいったらいいんじゃないかというようなご提案をいただきました。このサイトを作ることになるきっかけというのが一つありまして、たしか前回にも東京都からご説明があったと思うんですけれども。一つの大きな柱は、もちろん情報発信なんですけれども、もう一つの大きな柱としては、皆様方のご経験、実際の保護者の方々のご経験や実感、日々感じていらっしゃることをフィードバックしていただくと。私どもが一旦ハブになって、それを受け止め、それを企業様だったり自治体だったりに伝えていく。そして世の中を変えていくということが、もう一つの大きな柱であると考えております。

ですので、アンケートには、自分の子供がけがをしたとき、どうしたらいいかを見たいというご意見がたくさんあったんですけれども、実は東京消防庁様等々はじめ、小児科学会等々、それから「教えて！ドクター」といったサイト等々、日本にはたくさんそういったいざけがをしたときに、どうしたらいいかということを教えてくれるサイトはたくさんありますので、それとは少し趣を変えたいというのが私どもの考えとしてございます。ただ、全く入れないというわけではなくて、もちろん情報は入れていくんですけれども、どちらかといえば、予防とそれから皆さんの声をいただくというところに軸足を置きたいと考えております。

三つ目は、前回もたくさんご意見をいただきました。せっかくいいものを作っても、これをお知らせしなければ、多くの人に知っていただかなければ意味がないと。それは全くそのとおりだと思います。それで、私たちもいろいろ考えまして、もちろんSEO対策とかもあるんですけれども、先ほどのアンケートにも出てきましたが今、多くの保護者の方がツイッターとインスタグラムをお使いであるということがほかの調査でも分かっているんです。それで、特に若い保護者の方はインスタグラムからその情報を取ることが多いと。マーケティングの会社の方に聞きますと、今、グーグル検索すらも使わないと。インスタの検索窓に聞きたい、知りたいことをキーワードを入れてそこで検索をするくらいだというようなお話を聞きまして、このインスタグラムの隆盛が一体あと何年続くのかはちょっと分からないんですけれども、少なくとも今後3年から5年はインスタが若い世代の方たちのSNSの中心になってくるだろうという調査結果がありましたので、インスタに注力をしよう

ということになりました。

今、これ、見ていただいているのはスマートフォンの画面なんですけれども、お知らせ一覧の上に「マグネット、置き去り防止、園バス置き去り」という言葉が、キーワードが入っていますが、これをしていただきますと、それぞれ該当するインスタグラムのページに飛びます。ここに動画ですとか画像が載ってまして、情報発信ができるようになっています。そして、これがどう周知につながるかなんですけれども、インスタをフォローしていただきましてさらに通知オンにさせていただきますと、このSafe Kidsが投稿したインスタグラムが投稿されますと、そのフォロワーの皆さんに通知が行くという仕組みです。今まではどちらかというとメールで通知が来たりすることが多かったと思うんですけれども、今はメールよりもやはりこのSNSを使う方が多いということですので、取りあえずはインスタをフォローしていただいてインスタの更新があると通知が行くと、それで周知を図りたいと思っています。

では、それではどうやってインスタのフォロワーになってもらうのかということなんですけれども、それもマーケティングの方たちといろいろと検討しまして、今、ここに忍者のキャラクターと鳥のキャラクターが見えていると思うんですけれども、この人たちまだお名前がないんです。それで公開に併せて、この忍者と鳥の名前を募集しますと。皆さん名前をつけてくださいということをインスタ上でこのウェブサイト上で発表しまして、それだけだとあまり集まりませんので、プレゼントがありますと。例えばアマゾンのお買物券3,000円分がプレゼントされますと。そういうようなことをすると、応募が殺到するらしいのでそこで一気にフォロワーを増やしたいと。そういうふうに考えております。とにかくそのフォロワーを増やしてこのサイトを見に来てくれる人を増やさないと、結局消費者の皆さんの情報をいただくということもなかなかできませんので、まずは見てくれる方を増やすということが目標かなと思っています。

次は今もお話ししたんですけれども、双方向性です。前回の協議会でも双方向性をどういうふうに示して、どういうふうに情報を取るのかということも課題ということをいただきました。それがこのフォーラムというところがありまして、実は後で芝さんにも補足説明をしていただきたいんですけれども、フォーラムという言葉が分かりにくいというお話がありました。このフォーラムというのは、今作っているEditor Xというウェブサイトを作る仕組みの定番の言葉らしくて、フォーラムそのものを変えるということがなかなか難しいらしいんですけれども。その後、芝さんたちが調べていただきまして、フォーラムという

言葉そのものを変えるということができるので、ひとつ分かりやすくなるかなというのがあります。

それから、双方向性ということで皆さんから情報をいただくんですけども、それをどこで受け止めるとかということです。いずれは皆さんにインスタグラムに投稿していただきたいと思っているんですけども、当面は少なくとも今後公開後半年ぐらいは投稿する人をこちらで決めたいと思っています。既に5人ぐらいの方をお願いをしまして、こちらからテーマを30くらい既に送ってあります。例えば、ベランダからの転落予防ということがテーマになった場合、投稿する係の人が実際にご自分のお宅で「何も備えをしないと、こうやってうちの2歳の子がベランダに出てしまいます」という動画を撮ってもらいます。でも、「この窓が10センチしか開かないグッズを使うと、10センチしか開かないのでうちの子供もベランダには出られません」という動画を撮ってそれを投稿していただくというようなことを、毎日1回以上ツイッター、インスタでやっていただくことをお願いしています。

これは、限られた方による限られた投稿なので、こういうものを投稿すれば載せてもらえるんだなということを見ている人に知っていただいて、いずれは一旦受け止める窓を作ろうと思っています。それがもう待てないと、早くお知らせしたいんだという場合は、この「みんなに教えてほしい」今表示されていますが、このSafe Kids Japanのホームページに飛びますと「聞かせてください」と。これは既存のものなんですけれどもここに情報を寄せていただく。で、私どもが一旦それを受け止めて違う形でインスタに載せたりツイッターで投稿したりするということをしたと思っています。

先ほど釘宮委員からの利用のためのルールづくりをしたらいんじゃないかというご提案をいただきました。それは本当にそのとおりでと思いますので、最初は先ほど申しましたように決めた5人の方に投稿していただくんですが、その間に様子を見ながらルールを決めて投稿のルールということもここに載せていきたいと思っています。

次が5番目の商品購入の道筋です。これもほかのサイトではやっていないことなので、ぜひここでやりたいと思っているんですけども、例えば、先ほどベランダの件、例を出しましたが、じゃあそのベランダの窓が10センチしか開かないグッズ、これはどこで売っているのということになりますよね。そこをクリックしますとアマゾン・ジャパンのサイトに飛びます。アマゾン・ジャパンの当該商品のサイトに飛ぶんですけども、今ちょっと例がよくなくてベランダの窓が開かないグッズと言いましたけれども、基本的にはキッズデザイ

ン賞受賞製品、受賞作品だけに限らせていただきたいと思います。どうしてもキッズデザイン賞受賞製品ではない製品で、ぜひ使ってほしい安全グッズがある場合はこれも前回の協議会の中でご意見をいただきましたけれども、例えばC EですとかS Tですとか、そういった安全性を担保するためのマークがありますよね。そういったものがついているものを紹介するという事で対応したいと考えています。

では、これら全て今1から5までお話ししましたが、全てを見せるためにはデザインの力が必要になります。先ほどご意見いただきましたけれども、とにかくスマートフォン対応をしなければいけないということで、常にこのE d i t o r Xというのはスマートフォン対応とパソコン対応がシームレスで変更ができるサイトになっているので、スマートフォンで見ると縦長、パソコンで見ると横長で自動で見ることができるようになっています。

先ほどもデザインの課題をたくさん挙げていただきましたけれども、とにかくスクロールが長過ぎてそんな下まで見ないんじゃないかというのは確かにあると思います。今、確かにスクロールが縦長になり過ぎてしまっているんで、このボタンが幾つかありますが、そのボタンの先を、そのボタンのタイトル、ボタンの先の内容を工夫してそんなにスクロールしなくても見たい情報が見られる。それから今、この黒文字のS a f e K i d sの横に3本の棒がありますけれどもこれがメニュー画面なんです。多くのサイトがこのようになっているので、ここがメニューだということは多くの方お分かりになると思うんですけども、ここを押していただくとメニューに飛べるということをもう少し、もしかしたら何らかの工夫で示したほうがいいのかとも思っております。

私からは以上なんですけど、もし芝さん追加があればお願いいたします。

○芝氏 ありがとうございます。

太田さんの五つのポイントに従っていきますと、先ほど太田さんからご説明いただきましたが、このスライダーのところに一つ都知事の画像とコメント全部が入れられないとは思っているので、都知事のお写真とメッセージみたいなタイトルが入りまして、そこをクリックしますと都知事より詳しいコメント全部が載っているページに飛ぶような形にしたいと思っています。都知事のお写真がこのスライダーに入るだけでかなり東京都が深く関わっているというふうなイメージづくりができると思っておりますので、先ほどの太田さんのポイントの東京都の関係をビジュアルで表現するというところに寄与するんじゃないかなというふうに考えています。

それから2番目の立ち位置についてなんですけれども、このサイトは一応あくまでも防止策、または危険なことを情報発信するということに重きを置いているというふうになっておまして、対処法につきましては医療機関のほうにある種お任せしたいというふうなご意向も聞いていますので、一応防止策のところをまとめているということをもしかしたらご指摘のように少しどこかでより強くうたっていく必要があるのかなというふうに、先ほどの田崎さんのコメントから感じました。その辺りは今後改良をしていきたいと思えます。

周知の仕方につきましては、先ほど太田さんがご説明いただきましたのでここは割愛させていただきます、一つだけ周知の仕方についてです。SEO対策につきましては、最近は検索ロボットの能力が非常に高まっておりますので、あえてSEO対策とかは強力にやる必要もございませんで、とにかく文字を画像に埋め込むということをしなければかなりの確率で拾っていただけるはずですので、そこをポイントにして、画像に文字を埋め込まないということはやっていきたいと思っております。

それから、双方向性についてなんですけれども、具体的に運用当初は先ほど太田さんもおっしゃっていましたが、限定5人の信頼できる方が投稿をするということが前提になりますので、一般の方が自由に投稿するという状況は最初からは設けられないとは思いますが、これは迷惑な書き込み、悪質な書き込みを自動で削除するというシステムを組み込むのが予算的に限られておまして、どうしても人海戦術でパトロールをして問題のある書き込みについては手動で削除する必要があるまして、そこら辺がちょっと自動ではないところがありまして、最初は様子を見ながら信頼できる方に書いていただくということで、こういう情報をアップするところこういう効果があるんだなというのを見ていただいている方にまずは見ていただいて、その後開放して書き込む方を登録していただくというようなことを考えていました。ここに、各投稿のところへ行きますと、こういうログインできる場所がありまして、ユーザーの方のメールアドレスを入れて、パスワードを入れて、ログインして初めてコメントの書き込みができるという状態になりますので、こういう登録をしていただいて、登録をしたユーザーの方は個人の書き込みもできるようになりますので事故情報であるとか、あと安全対策商品であるとかというような情報を自由にやり取りして、その投稿していただいたコメントに対してほかのユーザーがさらにコメントするみたいな、真の意味での双方向性が将来的にはできるような形になっていくという計画です。

あと、サイト内で検索ができるといいですねというご意見を先ほどいただいたかと思う

んですが、ここにキーワード検索ができるような仕組みを組み込んでおまして、例えば「転倒」とか入れまして検索しますと、その転倒に関する書き込みがこういった形で出てくるようなサイト内検索の仕組みがありますので、こちらを利用していただくとこの書き込みの中、実際にはこのフォーラムという機能を使っていますので全ての情報をこのフォーラムでまとめて、言ってみればデータベースみたいな形になっておまして、そちらの中でキーワードが含まれている情報をまとめて、こういった形で出すようなことが可能となっております。

あと最後に全体のデザイン感なんですけれども、今回注意喚起と防止策ということで若干柔らかな注意喚起的な色合いを出すために、背景色に柔らか目の黄色をメインに使っています。そこに黒のロゴということで、若干注意喚起のカラーリングということをメインに使っています、ですけどお子さんのことだし、できるだけ柔らかなイメージにしたいということでこういった強い黄色ではなくて赤みの強い明るめの黄色を選んでいきます。で、忍者をキャラクターにして、忍者がこのSafe Kidsの化身のような象徴的な主人公になって、この忍者君が何かをみんなに知ってほしいとかみんなに伝えたいとかというような主体になりまして、情報を発信していくというような全体の立てつけになっています。あとは、いろいろボタンに今カラフルな色がつけられていますけれども、今後もう少しゾーニング、このグループをもう少し束ねるようなカラーリングを今後検討していきますので、そこもこれから改良していく予定です。

それと、この縦スクロールの問題についてなんですけれども、今、大きく情報のくくりとしまして、セーフティーコミュニティ、それから、このSafe Kidsライブラリーです。この二つが発信する情報のグループになっておまして、コミュニティについては皆さんで活発に情報交換をしていただくというような、どちらかという子育て中の方々の情報広場みたいなイメージだと思いますし、あとライブラリーのほうはもう少し分類をしまして、専門家の皆さんへの情報集のような形ですね。あとは製品サービスのところ、それからこちらは親御さんに向けたライブラリー、情報集というグループで分類をしています。

この分類について確かに縦スクロールが長いものですから、ちょっとまどろっこしいなということになりそうですので、一つの方法としてはこの上のところ、割とスライダーのすぐ下かお知らせ一覧の下辺りに、セーフティーコミュニティとライブラリーという大きなくくりのボタンをスライドさせるボタンですね。この長い画面をシュッとスライドさせるボタンです。実際にここ、傷害予防の図書館というボタンが実はここに隠れておまして、

ここに設けてあるんですけれども、このボタンを押しますとライブラリーのところに飛ぶんですけれども。今は「みんなに知ってほしい」の中に入ってしまったので、このボタンを外に独立した形を出して、縦スクロールを自分でやらなくても大きく縦にスライドするジャンプボタンのようなものを二つ、三つ、この辺りに設けていって、縦スクロールの長さの煩わしさを改良するようなことを考えています。

私からの説明は以上となります。

○松田統括課長代理 ありがとうございます。

太田様もよろしいでしょうか。

○太田氏 結構です。ありがとうございます。

○松田統括課長代理 事務局からプラットフォームの検討の前に、改めてこのプラットフォームの主体についてご説明いたしますと、先ほど太田様、芝様から都が関与しているということ、都のマークあるいは都知事のメッセージのお話がありましたけれども、このプラットフォームの主体は構築の主体はS a f e K i d s J a p a n様であって、東京都は構築の支援、下支えをしている立場でございます。

この趣旨は、既に傷害予防に取り組まれている専門家集団であるS a f e K i d s J a p a n様が機動性を発揮しまして、大胆なチャレンジとか先進的なトライアルをすることでこの東京都、行政ではできないような取組を行って魅力的なプラットフォームを構築するために、こういう形で進めているということを改めてご理解いただければ幸いです。

以上となります。

議題（1）のアンケート調査結果なども参考にいただければ幸いです。よろしく願いいたします。

○西田会長 ありがとうございます。

それでは今、前回のいろんなコメントをいただきまして、まだこれ、反映の途中だと思うんですけど、それを反映させた改良中のプラットフォームを見ていただきました。それから大きな改善の方針についても6点ですか、ご提示いただきました。

ここからは今進行中のプラットフォームにつきまして、ご意見、ご質問等をお願いしたいと思います。また、これを受けまして12月以降にさらにプラットフォームの改良したものを提示したいと思っておりますので、今日はご活発なご意見、ご質問などをいただければと思います。

それでは、よろしく申し上げます。ご自由に、手を。

それでは、最初に鈴木春代委員、お願いします。

○鈴木委員 全国消費生活相談員協会の鈴木と申します。

このサイトを見させていただいた感想を言わせていただきたいと思います。

全体的な色はとても個人的には気に入っております。そして、やっぱり安心感というか安全に関する事なので、その中で赤とか黒とかをすごく色よく使っているなと思いましたが、全体的な雰囲気はとてもいいなという感じです。

ただ、用語の件ですが易しくしてはありましたけれども、実は最近の消費者は文字離れ、言葉の理解力がすごく低くなっているなど感じることもあるので、なるべくというか極力平易な言葉にして表現していただいたほうがいいと思いました。

また、アンケートの中にもあったんですが、英語が多いということですね。英語は多分必要だと思うんですけども、もうちょっと分かりやすい日本語的なものも、ポイントポイントでは必要ではないかなと思いました。

あと二つ目、コンテンツについてなんですけど、私が見逃したのかもしれませんが、今小学生も幼稚園からインターネットをやる時代なんですね。このプラットフォームを保護者向けだということですけども、その辺をもう少し「みんなに伝えたい」のコンテンツの中で、キッズ投稿も可能にできるのかできないのかというのは疑問があります。ちょっと検討していただきたいなと思いました。

それにはやはりアンケートにもありましたが、文字が多い、読んでいただけないということもあるかなと思いますので、何かゲームとかクイズとか漫画的なものも利用すれば、結構皆様に面白いよという印象を与えられると思いました。

それと、アンケートの意見で、最後、Qの29の回答が私とても気になりまして、忌憚のない意見が多くて一般の人が感じているということ、そのものの回答だったと思いました。今回のこのポータルサイトに改善された部分も多いかと思いますが、なるべく見てもらう、見たい気持ちになる、そうすれば参加できるというやっぱりポータルサイトの一つの特徴であることを主張していただいて、誰でもがのぞける気楽さでしょうか、そうすることがアクセスしやすいかなと思います。なので、やはりサイトの入り口で入ってもらう。入ってもらったらああこのことが載っているんだとあって、また入ってもらえる。リピーターですよ。というような作り方ができればいいと思っています。

細かい点で申し訳ないんですが、仮なんだろうけども、用語的に、傷害カレンダーというのは一般的なんだろう。傷害って出てきて、うん何だろうと思ってしまったので、も

つとこの言葉をもうちよつとソフトな感じの言葉にさせていただきたいなと思いました。

忍者さん、とてもいいんですけども、忍者さんの下にいろいろサイトがありますが、忍者さんをもうちよつとアピールできればいいかなと思っていました。今回のサイトを見た感じの直感ですけど述べさせてもらいました。

以上です。

○西田会長 鈴木委員、ありがとうございます。コメントも丁寧に読んでいただいて、参考になる意見をありがとうございました。

それでは、次にキッズデザイン協議会の奥村委員、よろしくお願いします。

○奥村特別委員 奥村です。よろしくお願いいたします。

今、鈴木委員からもありましたけれども、色のベースはよろしいのかなと思っております。

ただ平易であることは必要だと思うんですけど、弊会、キッズデザイン協議会でキッズデザイン賞をやっている、いまだに誤解が多いのが子供向けと思われてしまうこと。悪い言い方をすると、子供だましの思われてしまうところとちょっと損をするのかなと思ってます。平易なことはいいいんですけども、あまりお子様向けな感じにまでいってしまわないように少し気をつけていただけたほうがいいのかと思っております。

あと欧文が多い。アンケートでも出ていましたけれど、欧文になってくるとよく分からない、英語が出てくると。私は以前通販カタログの制作を長年やっていましたけど、確かに横文字が出た段階でスルーされます。そういう傾向はいまだにあると思いますので、使い方は注意する必要があるのかなと思ってます。コミュニティーは、今、日本語でもコミュニティーなんですけれど、デザイン的な処理は分かるんですけど、欧文で通さないほうがいいのかもしれない。そういうところなのかなと思ってます。

あと、検索性とメニューバーの話。先ほども議論がありましたけど、メニューバーはあるんですけどそこに載っている項目とこのサイトの画面の項目が一致しているのかしてないのかよく分からないので、どこに飛ばされるのかが分からないというのがあります。先ほどご案内いただいた用語の「図書館」を押すと「ライブラリー」に行くという、違う言葉のところに飛ばされると訳が分からなくなるんですね。だから、そういうのを揃えていったほうがいいのかと思います。言語は統一したほうがいい。言葉遣い、これはこの後幾らでも何とでもなると思いますが、例えば「子供」という表記一つとっても、漢字交じりと平仮名だけだとかというのが混在したりするので、その辺はルールを作ればいいのかと思ってます。

それから、先ほど指摘があった忍者君。せっかくかわいらしいキャラクターがいますので、うまく使えればいいのかなと思っています。忍者らしい切り口だとか、例えばライブラリーはいっそのこと『何とかの虎の巻』という名前にしちゃうだとか。そういったことをやっていくと少し世界観ができ上がっていくのかなと思っています。

幾つか並べてしまいましたが、私からは以上でございます。

○西田会長 奥村委員、ありがとうございました。

それでは続きまして、釘宮委員よろしく申し上げます。

○釘宮委員 ありがとうございます。

では、私にご指名がございましたので、意見を述べさせていただきます。

大きく分けると3点ございます。まずコンセプトの示し方というんでしょうか、このサイトがどういうサイトなのかが、トップページに入ったときにあまりよく分からないなという印象があります。例えば、今スライダーが動いている状態ですけれども、忍者が犬を連れてきたような絵がありまして、そこに「子供の安全のためのプラットフォーム」という説明だけがありますけれども、例えばそこに何か「子供の安全の予防と事例を載せています」のような、もう少しこのサイトはどのようなサイトかというコンセプトが分かるような情報を付け加えると分かりやすくなるのではないかという感じがいたします。

それから、「Safe Kidsとは」というメニューをクリックすると動画のようなものがありますが、ここに「東京都が支援をしていて、こういう目的でサイトを作りました」というようなことを書いていただくと、コンセプトが明確になるのではないかと思います。

その下に「ご挨拶」というのがあるんですけども、これがどういう位置づけのものかがよく分かりません。NPO法人として「ご挨拶」ということはよくあると思うんですけども、プラットフォームで「ご挨拶」という標題に少し違和感があります。また、内容として、コンセプトをしっかりと打ち出すのであれば、今書いてある「思い」のようなものより、もっと明確に、こういう目的でこういう情報を載せているんだということを書くほうが、プラットフォームにおける説明書き、ただし書きとしてはふさわしいのではないかと思います。

次にサブタイトルについて申し上げます。先ほどもご指摘が幾つかあった点ではあるんですけども、例えば、「みんなに知ってほしい」とか「みんなに伝えたい」ですね。今は「簡単にできる予防方法をプロが教えるよ」というような説明があるんですが、ぼんやりした感じがして、あまりよく分からない感じがします。それから、フォーラムという言葉については、先ほど変えられるというお話もあったんですけども、コミュニティーやフォーラ

ムという言葉が英語なので、何をこの画面でやるのかというところがいま一つはっきりしていない。よく分からないので使われなくなってしまう可能性があるのではないかなという気がいたしました。

あとは少し改善も加わっていたようですけれども、「初めてのチャレンジ」って、何が初めてのチャレンジなんだろうとか。そのフォーラムの中の幾つかの種類についても、ネーミングというんでしょうか、それを少し検討していただくほうがいいのではないかと思うのがありました。

最後ですけれども、資料2として示してくださっている、第1回協議会で出た意見に対してどういう対応を取るかというご回答についてです。その7ページの1行目に恐らく私が1回目に述べた意見ではないかと思われるものがありまして、自治体で子育て情報の発信をやっているところがあり云々というものなんですけれども、そこで「傷害予防に特化したほうがよいのでは」というご回答をいただいています。私が述べた趣旨が少し分かりにくかったんだと思うんですけれども、私はこのサイトで扱う情報を増やしてくださいということで申し上げたのではなくて、サイトの入り口を増やしていただきたいという意味で申し上げております。

つまり、基礎自治体が既に持っているような子育て世代向けの情報の発信の部分にサイトの入り口を設けていただく。例えば小さい子供の保護者ですと、保健所に行ったり役所に行ったりするようなこともよくあるかと思えます。そういうときに基礎自治体のホームページなど、保護者が調べるようなところに入り口的なものを設けていただいて、そこからこのSafe Kidsのサイトに飛んでくる、リンクが張ってあるというような形を取っていただくと、さらにこのサイトを知っていただく機会が増えるのではないかと考えておりますので、ご検討を再度いただければと思います。

以上3点申し上げました。

○西田会長 釘宮委員、ありがとうございます。非常に的確なコメントだったかなと思います。コンセプトの示し方、サブタイトル、それからサイトの入り口を増やしてほしいということで、いずれも改善がかなりできるんじゃないかと思えますので、また検討していただきたいというふうに思います。

今、お手が挙がっているんですけど、順番にご指名させていただきますので、最初に鹿野委員からお願いできますか。

○鹿野特別委員 ありがとうございます。

五つほど、お聞きしたいと思います。

一つ目は、投稿が多くなったときにどのくらい古いものから消していくということになるのか、現時点で何かお考えがあれば教えていただけないかなと思います。

二つ目は、投稿が多くなると、前に見た古い投稿をもう一回みたいとなったときに、探すのが大変になってしまうため、コンテンツ内でキーワード検索またはキーワードに該当するものが上位にくるような並べ替え機能が追加できないかという質問です。現時点でのキーワード検索では、このサイト全体の中で該当するものが全て出てきてしまうので、そうではなく、例えば「事件事例と対策」というページ内で「歯ブラシ」に関するものを上位に表示させるような機能が追加できればよいと思いました。

三つ目は、鈴木委員のご意見と同じになってしまうかもしれませんが、たくさんの方にきていただきたいということで、楽しみながら学べるコンテンツがあるといいなと思いました。例えば、危険な扱い方と危険ではない正しい扱い方というものを選択するゲームや、危険な行為探しのようなゲームといった、親子で学べるようなゲーム要素のあるコンテンツがあると興味を引けるのではないかなと思いました。最初に全てが掲載されていなくても、徐々に掲載されていくとよいのかなと思います。コンテンツが常にリニューアルされていく方が、更新されていないサイトまたは管理されていないサイトであると思われずにすむのではないのでしょうか。

四つ目ですが、コンテンツのタイトルのところに括弧で「For parents（フォーペアレンツ）」と書かれている箇所がありますが、「保護者の皆様へ」や「子供を育てられている皆様へ」のように日本語にさせていただいた方がいいのかなと思いました。子育てしている方には、おじい様やおばあ様などもいらっしゃるかと思いますし、他の言い回しがあるといいのかなと思いました。

五つ目ですが、「子供」の表記は、全てひらがなで「こども」と表記された方がよいかもしれません。最近、「こども家庭庁」が出来る関係で、平仮名表記の「こども」表記を推奨する文書がこども家庭庁設立準備室から送られてきたため、ご参考までに申し上げます。

以上五つです。よろしく申し上げます。

○西田会長 鹿野委員、ありがとうございました。

それでは、引き続き浦野委員、お願いできますでしょうか。

○浦野特別委員 ありがとうございます。

意見と、懸念点二つ、お伝えしたいと思います。

意見のほうは、ほとんど釘宮委員が言ってくださいました。コンセプトとといいますか目的という点になります。前回の委員会での説明で、このプラットフォームは収集と発信、大きく二つとありました。「発信」の内容は予防であったり事例であったりとあるけれど、「収集」は両輪の一つというふうに理解をしておりました。また先ほどコメントありましたけども、「ご挨拶」のところに書かれているのを読むと、収集の大切さがすごく書かれています。サイトに来た人がすぐ分かるように、「このプラットフォームは発信と収集です」ときっちり明確に示してあげて、随所でそれを意識した書きぶりにしてほしい。「サイトに到達したけど何しているんだろう。アイデアも募集しているのかな」と、ちょっとぶれてしまうので、明確に明示して説明してあげたほうが読者は読みやすいと思いました。こちらが1点目の意見です。

あと懸念点としまして、先ほどお二人の方からご説明をいただいて、ちょっと心配になったことをお伝えさせていただければと思います。

一つ目は、Safe Kids Japanさんと東京都さんとキッズデザイン協議会との関係です。皆さんそれぞれの目的と専門性等を持っていらして連携していると理解しています。しかしながら、これを読んだ人は、「東京都がやっていると思って読んでいったら、Safe Kidsだった」と感じてしまう。私自身も、ずっと下のほうに行くと東京都の文字が消えてしまって、最後はSafe Kidsさんが出てきて、「あれっ違うページに来ちゃったんだっけ」と勘違いしました。さらに先ほど松田さんのご説明で、東京都が主催ではないと知りました。だったら、こちらにそのように書いていただかないと読者は混乱します。アンケート結果でも公共のものへの信頼性はすごく高いですので、読者がだまされたと思っちゃうのは残念です。同じようにキッズデザインの話で、購入につながるの大事な話だと思うんですけども、アマゾンにつながった途端に消費者は、「あれっ東京都のホームページだったのに物につながるの？」というところでやっぱりそこで、まただまされた感を感じてしまうかもしれない。であれば最初に、例えば「キッズデザイン協議会はこういう趣旨で、Safe Kids Japanはこういう趣旨で連携して活動していて、東京都はそれを応援しています」みたいな形で位置関係が明確に分かるようであれば、「あっそういうことでこのページはあるんだ、アマゾンにもつながるんだ」と分かるので、消費者はそれを知った上で参加できると思います。後から「えっ」となっちゃって、信頼を損ねてしまうのではないかと、大変心配しました。

あともう一つは、話は別ですけども、最初のうちの投稿は決められた5人だけですよという

話がありました。いろんなことを考慮されて、そうされていると思うんですけども、読者が「一般の方ではなくて、そういう選ばれた5人の投稿を私は読んでいるんだ」と分かる形になっているのが心配になりました。一般読者の話と思っていたけど、実は5人限定だったというのを後から知ったときに「だまされた、サクラだったの？」みたいなのがあったときに、透明性が求められる今の社会ではちょっと気をつけないといけないんじゃないかなというふうに思いました。

以上です。よろしくお願いします。

○西田会長 ありがとうございます。

それでは、成育医療研究センターの植松委員、よろしくお願いします。

○植松特別委員 ありがとうございます。よろしくお願いします。

私、あんまりインスタとか得意じゃないので、逆にそういうところの意見はあんまりなんですけれども。送っていただいた資料と、それからアクセスできるサイトでいろいろ見せていただいて、多分送っていただいた資料より、今アクセスしたときに少し分かりやすくなっているのかなと。サブタイトルがついたりなんかして分かりやすくなっているのかなと思ったんですけれども。

最初に Safe Kids コミュニティーというところがあって、下のほうにライブラリーがあるけれども、最初の Safe Kids コミュニティーの「知りたい」のところの三つ目は Safe Kids ライブラリーになっていて、意味合いは多分違うと思うんですけれども、図書館と図書館みたいな意味なのかなと思っちゃったりして混乱しやすいかもしれないなと思いました。内容は全然違うものなんだとは思うのですけれども、言葉のことという、まず1個目はそこですね。

2個目の「みんなに伝えたい」というところになります。さっきおっしゃっていたように、最初は投稿者が何名か選ばれてということなんですけれども、それでも最初に投稿をその5名の方以外がする場合には、その下の今の Safe Kids Japan の投稿フォームになると思うんですけれども、そこを見るといろいろ年齢とかお子様のいろいろ、どういう状況でけがに遭われたかという、フォームに入れていく感じになっているんですが、この上のほうの「これからみんなに伝えたい」というほうに関しては、インスタ的な感じで、フリーに書き込めるような感じなんですかね。そうすると情報としてすごい、偏った情報があるときに、投稿者は一般の方なんで、それでいいと思うんですけれども、全くそういうフリーの場にするのか、 Safe Kids Japan や東京都が協賛したりしているこ

となので、信頼度みたいな、全く個人の意見、一般の方の個人の意見というよりは、少し構成を修正してはいけないのかもしれないですけど、コメントとかで何かアドバイスじゃないんですけど、そういう機構がどうなっているのかなと思って。全くのフリーダムな一般の方のインスタの投稿になるみたいな感じなのか。こういうプラットフォームでそれがいいとか悪いとかじゃないんですけど、うまくいくかは分からない。その5名の方だったら絶対うまくいくと思うんですけど、投稿者を広げたときにそれが本当にどの程度、半公的な場としていくのかなというのが懸念されました。

もう一個は、頂いた資料で F o r P a r e n t s の事件事例と対策という、頂いた資料でこのキャプションのところで見たものがあるんですけども、それって、今これは、これだけの資料って新たに作られたというより、S a f e K i d s J a p a n の資料を使われているんですか。一個言うと、例えばベビーカーからの転落で事件事例、予防法という並び方をしていると思うんですけど、文字が多いとかの今までのご意見もいただくと、このタイトルとまず予防策が先にきて、その下にもう少し短い事例でも、リアリティーを持たせるためにももしかしたら長くしているのかもしれないんですけど、やっぱり文字が多いとかいろいろ言われている中、タイトルとまず予防策が出てきて、その下に事例の説明なんかがあると、まずニーズに応じやすいのかなと、思いました。その辺り細かいところまで入ったんですけども今日のところはご意見言わせていただきました。

取りあえず以上です。

○西田会長 植松委員、ありがとうございました。

○植松特別委員 あと最初 F o r B u s i n e s s になっていたところで、すみません一個追加します。

今は企業とかそっち向けみたいな感じになっているところに、その緑の消費者からの情報というのは、これは一般の方が投稿されたものがここに載るんですかね。それなのでフィルターというか、I n j u r y A l e r t とかやっている、その一般の方がまず医者が目を通してきた投稿に対しても、やはり事故防止とか製品という視点を持ってないと、少し記事がずれてしまいます。一般の方がここに載せる意義とかがあれば、先ほどのアンケートにも「メーカーに直接言う」という意見も多かったので、そういう場として利用されるんならいいんですけども。このビジネス的なところにこの消費者の意見が直接載るのも、それもいいことですが、そういう場なのか、もう少し専門家の意見とか入れたものをここに載せるのかとかいうことを考えていました。以上です。

○西田会長 ありがとうございます。

それでは、続きまして国民生活センターの菱田委員、お願いします。

○菱田委員 ご説明等ありがとうございました。

かなり皆様からご意見等が出ていて、ほとんどそれらにかぶることなんですけれども、まずは「コンセプト」ということがよく出ておりましたけれども、明確に短い言葉で、あるいは絵というか、アイコンとか何かで示せるといいのかなというふうに思いました。私もインスタとかそういったものは得意ではないんですけれども、まず見たときに、何秒ぐらいかで、ああもう次のページに行こうと思ってしまうかと思うと、最初のところでいかに目を引くかという部分も重要ですし、その後コンテンツの充実ということもあるんですけども、その辺りについては深掘りをして少し深い階層に入っていったときに見れるようにしたほうがいいのかというふうに思いました。

これも、皆様からのご意見等が出ていることなんですけれども、投稿についてなんですけれども、これは入れられたときには、すぐそのまま載ってしまうのかというところでもございます。そうした場合、なかなかパトロールといいますか、チェックをして的確なものかどうかというのを判断されるということなんですけれども、それはなかなか難しいのかなというふうに思いますので、一旦留め置いて、中を確認して若干修正なり不適切な部分を除いて掲載されてはどうかと思いました。

それを、最初5名の方に書いていただくということなんですけれども、やはり最初はそれで道筋ができて、運用しているうちにどんどん外れていくということも懸念されますので、議長を置くではないんですけれども、そういった交通整理の仕方のほうも考えられたほうがいいのかというふうに思いました。

以上でございます。

○西田会長 菱田委員、ありがとうございます。

それでは、引き続き安藤委員、よろしくをお願いします。

○安藤特別委員 ありがとうございます。皆様のおっしゃっていた意見もそのものだと思っているので、それ以外の話をします。

近い話にはなってしまうかもしれないですが、デザインは非常にいいかなと思ってはいます。ただ、例えばですが、「Safe Kids Community」という言葉に対して、「コミュニティー」というのは「みんなの広場」のようなイメージかなと思われます。しかしここでやりたいことは、いわゆる一般の子供を持つ親が「こんな事故があったよ」と

いうのを共有して、それに対してみんながコメント、「こんなのあるよね」とか「いや実はうちでもこんながありました」のようなものを共有していく広場であると思っています。

それに対して一個目が、いきなり簡単にできる予防を「プロが教えるよ」というのは、ちょっと違和感がありました。また、いつ、どんな事故、けがが起きるのかという内容について、誰が何を投稿するのが不明確に感じました。どちらかという、このコミュニティーで一番必要なのは、みんなに伝えたい子供のけがや経験を紹介することがメインになると思いました。当然コンセプトが「予防」ということなので、この項目を上を持ってきたのだと思いますが、いきなり「プロが教えるよ」では「コミュニティー」だとは思えず、先ほど植松委員も言っていたようにこれは「ライブラリー」に近いのかなという認識を持つと思いました。そこの整理だけは必要と思いました。

あと、単純な話ですが、アンケートの中にも、「投稿場所が分からない」という意見がありました。自分も確かにこれを見たときに、これは自分で投稿するフォーマットのものなのか、それとも閲覧して知識を入れるだけのサイトなのかというのが、わかりませんでした。何回かクリックすると投稿できるページであることがわかりました。このため、ページトップ付近に「投稿はこちら」や「事故の共有はこちら」、インスタをやるのであればインスタのマークなど、リンク先を張るようなことをすべきと考えます。それをしないと、誰も投稿するものなのかが分からないと思いました。

加えて、できるできないが不明ですが、年齢の枠を分けるのが重要かと思いました。高学年の子供がいる家庭では、小さい子の情報ばかり載っていてもあまり見ないと思われます。アンケートにも同様の意見があったと思います。10歳の子供がベビーカーの事故の事例を見たいかという、それは多分ないと思います。このため、そのカテゴリー分けが何か機能上できるといいと思います。また、年齢だけではなく、例えば事故の場所、製品のカテゴリーなども、投稿の中で分けられるといいと思いました。ただインスタなどにするとハッシュタグで分かれていくと思い、統制は難しいと思いました。このため、投稿フォームの中でカテゴリーを選択式にしてしまう（書くと時間がかかるため）のが、一番良いと思いました。

私のほうからは以上になります。

○西田会長 安藤委員、ありがとうございました。

そのほか、まだご発言いただいていない方ですと、阪本さんですか。

○阪本委員代理 本日山根の代理で出席をしております、阪本と申します。

○西田会長 よろしくお願ひします。

何かございますか。

○阪本委員代理 ページ自体の構成ではないんですけども、例えば東京消防庁が今後広報物を作ったときに、より多くの方に見ていただきたいんですけども、このプラットフォームに載せていただくことは可能なのでしょうか。

○西田会長 これはいかがですか。これは。

○阪本委員代理 現時点で何をということではないんですけども、例えば動画コンテンツを製作した際にその辺りの自由度というか。

○西田会長 これは後ほど太田さんからもお答えしていただこうと思いますけど、まさにそういう連携が自由にできるというところがいいところだと思っていますので、ぜひそういうご提案をいただければと思います。

○阪本委員代理 分かりました。

以上です。

○西田会長 ありがとうございます。

先ほど田崎委員からいろいろコメントをいただきました。今、いろんな委員の先生からのコメントで出尽くしたかもしれませんが、まだ補足しなきゃいけないところあるかもしれないかなと思うんですけども、いかがでしょうか。

○田崎特別委員 ありがとうございます。先ほど結構お伝えしたのですが、細かいことと言うと、最初のページのお知らせ一覧という項目が気になっていまして、お知らせというサイト側からの発信したい内容みたいな感じに捉えられるかなと思います。どちらかというとここは最新の事故のニュースなのかなと思っていますが、内容としてそうであれば、お知らせではないのかなというのと、今白い枠の上にニュースが三つほど載っているのですが、見え方としてもあまり目立つものではないかと思っています。まずは最新の事故でこういうことを気にしてねというのを伝えたいのであれば、少し見せ方を変えたほうがいいのかと思いました。

あと二つです。一つは、先ほどのご説明いただいた中にありましたが、色数が多いとアンケートの中にもありまして、例えば、枠の色と中のボタンは同系色を使われているのですが、同じ色で明度差をつけたボタンの色でもいいのかなと思いました。枠の色と同じでボタンは明度差があるものでもいいのかなと思いました。

最後もう一つが、最初のトップの右上に、東京都のマークと日本財団のマークがありますが、もしかしたらその白い背景じゃないと駄目という条件があるのかもしれないですが、も

し背景の色を変えられるのであれば黄色に合わせるか、もしくはリンクがあるので、少しその四角い白い枠じゃないほうがいいのかなど。四角い白い枠があると、今、仮で画像を配置しているだけなのかなと思ってしまわれかねないなというふうにデザイン的には思ったので、そこが気になったところです。

以上です。

すみません、ありがとうございます。先ほど結構お伝えしたんですけど、細かいことで言うと、先ほどお伝えした中にあったかどうか。最初のページのお知らせ一覧という項目が気になっていまして、お知らせというとサイト側からの発信したい内容みたいな感じに捉えられるかなと思ひまして、どちらかというところは最新の事故のニュースなのかなと思ってはいるんですが、それは内容としてはそうですかね。

もしそうであれば、お知らせではないのかなというのと、今白い枠の上にニュースが三つほど載っているのですが、見え方としてもあまり目立つものではないので、ここの見え方が何かうまく、まずは最新の事故でこういうことを気にしてねというのを伝えたいのであれば、少し見せ方を変えたほうがいいのかというふうに思ひました。

あとすみません、二つなんですけど。もう一つは、先ほどのご説明いただいた中にあったんですが、色数が多いというふうにアンケートの中にもありまして、例えば、枠の色と中のボタンは同系色を使われているんですが、同じ色で明度差をつけたボタンの色でもいいのかなというふうには思ひました。枠の色と同じでボタンは明度差があるものでもいいのかなと思ひました。

最後もう一つが、最初のトップの右上に、東京都のマークと日本財団のマークがあるんですが、そちらもしかしたらその白い背景じゃないと駄目という条件があるのかもしれないんですが、もし背景の色を変えられるのであれば黄色に合わせるか、もしくはリンクがあるので、少しその四角い白い枠じゃないほうがいいのかなど。四角い白い枠があると、今、仮で画像を配置しているだけなのかなと思ってしまわれかねないなというふうにデザイン的には思ったので、そこが気になったところです。

すみません、以上です。

○西田会長 ありがとうございます。非常に具体的な点と改善点もいただきまして、ありがとうございました。

今、全員の方からコメントいただいたかと思ひますけど、大きいところでややコンセプトが分かりにくいというところで、その部分であるとか、あと見ていった中でいろんな誤解

を生むんじゃないとか、だまされた感がないような工夫がいるんじゃないかであるというところは、非常に重要なポイントかなと思います。それから、まだまだ分かりにくいというところが、大分前回からは改善されたように思うんですけど、まだまだ分かりにくいところがあるということで、この辺りも引き続き改善をお願いしたいなというふうに思います。

それから、クオリティーコントロールというか一般の人にどう広げていくのかに関しては、これはまた、まずは限られた人でクオリティーをある程度コントロールした中で進めていくということなんですけども、この辺りも検討いただければというふうに思います。

その他、細かい情報の見せ方、順番、投稿のフォームなどについても、コメント、ご意見をいただきましたので、その辺りも改善を進めていければというふうに感じました。

そのほか追加でございますでしょうか。

○太田氏 西田委員、太田ですけれども、1点だけよろしいでしょうか。

○西田会長 お願いします。

○太田氏 Safe Kids Japanの太田です。

先生方、いろいろなご意見、ご提案、ありがとうございました。

1点だけ、私の冒頭の説明がよくなかったと思うんですけども、Instagramに投稿できる人今は5人ですと言いましたが、五つのアカウントがあるのではなくて、アカウントは一つだけ、Safe Kidsのこのプラットフォーム専用のアカウントを5人で回していくという意味です。なので5種類の投稿があるわけではなくて、一つのアカウントに5人の方が日替わりで投稿していくということです。

それから、一般の方はどんな投稿がされるのかというようなご質問をいただきましたけれども、現時点では一般の方の投稿は基本的にはできません。

芝さん、下げていただけますか。

先ほどもご説明したんですけども、一般の方が投稿できるのは既存のSafe Kids Japanの「聞かせてください」だけなんです。そこに、ここですね。ここに投稿していただいたものを、こちらで精査してそれを加工してインスタに載せるか、あるいはその少し上にあつた消費者からの情報、ありましたよね。消費者からの情報、ここに加工して載せるかという形にします。なので現時点では、一般の方が自由に投稿できるというのは、気軽に投稿できる場所ではなくて、既存の「聞かせてください」に投稿していただくということになります。

それから、コンセプトが分かりにくい。確かにそうだと思います。今、一番上のスライド

一の中に、ムービーの画面が出ているんですが、今、このコンセプトムービーを製作中です。ここにこのサイトは何のために作られて、どういうことが目的で、こんなふう運営していますという、こんな効果があると期待しますみたいなことを1分間の動画でまとめる予定で、今、それを作っています。ですので、先ほどざあっと下げると、今、イマジンという動画が入っているんですが、これはまさにSafe Kids Japanの世界観を表した動画なんです、ここには、今作っているコンセプトムービーが入る予定になっています。

それから、ご挨拶、ちょっと不似合いだというご意見をいただきました。確かにそうだと思います。ちょっとここ検討したいと思います。

先生方いろいろご意見いただきまして、ありがとうございました。大変勉強になりました。いただいたご意見を参考にまた改良に努めたいと思います。ありがとうございました。

以上です。

○西田会長 Safe Kids Japanの太田さん、補足説明ありがとうございました。

それでは今いろんな意見をいただきまして、大変ありがとうございました。Safe Kids Japan及び事務局には、本日いただいた意見等を踏まえてプラットフォームの改良をさらに進めていただけるようお願いしたいと思います。

最後にですけれども、今後の協議スケジュールについて事務局から説明をお願いいたします。

鹿野さん、何か補足でございますか。

○鹿野特別委員 一つ追加してもよろしいでしょうか。アクセシビリティデザインの観点から黄色い色合いの背景にオレンジの字が見えにくいなと思いましたので、背景色と文字色のコントラストを見直していただけるとありがたいかなと思いました。保育園にお迎えに行くおじい様、おばあ様を多く見かけるようになってきたと思いますが、そのような共働きのご両親の補助をされているおじい様、おばあ様もこのサイトを見られる可能性が十分あるかと思った次第です。若いおじい様やおばあ様もいらっしゃるかとは思いますが、50歳を過ぎてくると見えにくさというのが出てくるため、背景色と文字の色のコントラストをもう少し工夫していただけるとありがたいかなと思いました。 よろしくお願ひします。

○西田会長 鹿野委員、重要なお指摘ありがとうございました。それも含めて改善を進めさせていただければというふうに思います。

それでは、今後の協議スケジュールについて、事務局から説明をお願いします。

○松田統括課長代理 それでは、今後のスケジュールについてご説明いたします。

第3回協議会は12月以降を予定しております。今年度最終回になります。速やかに日程調整のご連絡をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

これから、引き続きアンケート調査結果や委員の皆様方のご意見を踏まえ、プラットフォームをSafe Kids Japan様と一緒に改良してまいります。その後、改良したプラットフォームを委員及び特別委員の皆様にご確認いただきます。

第3回の協議会でプラットフォームを確定して、Safe Kids Japan様のほうで運用を始めたいと思います。

東京都は、この協議会のご助言を受けたプラットフォームの確定後、公表のプレス発表を行う予定です。

説明は以上となります。

○西田会長 ご説明ありがとうございました。

それでは今、今後の進め方のご説明がありましたけども、ただいまの説明、その他ご意見、ご質問等ございましたら、よろしくお願い致します。

何かございますでしょうか。田崎委員、よろしくお願い致します。

○田崎特別委員 今のプラットフォームのサイトなんですが、前回のものも動く状態で見るということは可能でしょうか。比較して前の回のをみたいと思うことがあったのですが。もし可能であれば。

○西田会長 旧と二つ同時に動きますか。

○芝氏 シフト、芝です。お答えします。

このEditor Xのシステムは、どんどん更新をしていきますのでこの何月何日の時点の状態を一つのアドレスで同時に持つということができないんです。なので、前回改良前の、前回の協議会でお諮りした状態は画面のキャプターで一応残しておきまして、既にそれは皆様に共有いただいているんですかね、はい。そちらをちょっと見て比較をしていただければと思います。

○田崎特別委員 分かりました。ありがとうございます。

○西田会長 田崎委員からは具体的なコメントがまだまだいただけるんじゃないかと思いますが、ちょっとご不便をおかけしますが、見ていただいてぜひいろいろご指摘いただければと思います。よろしくお願い致します。

そのほか進め方等、ご意見、ご質問等ございましたら、ございますでしょうか。

それでは、少し時間を超過してしまいましたけれども、ご審議はここまでにしたいと思います。

今回は、先ほど松田統括課長代理からご説明ありましたが、第3回協議会ということで12月以降、1月ぐらいになるかもしれません。ということで開催したいと思います。今回は最終回となります。先ほど説明ありましたが、さらにプラットフォームの改良を進めて、次の協議会までの間に委員の皆様方にご確認いただきたいと思っております。ご協力ください。よろしくお願いいたします。

それでは、本日の議事は全て終了いたしました。ご協力いただきましてありがとうございました。

午後3時31分閉会